

渡邊謙岡 （おとむら） 新聞記者。明治二年常陸國生れ、大正十二年二月十九日没（一八六九—一九二四）。舊姓寺門、本名寺門巳之次郎。筆名寺門巳之次郎、寺門謙岡、渡邊巳之次郎、謙岡隱士。水戸中學校卒。明治二十二年大阪毎日新聞社入社。二十六年編輯苟半幹となり、政治・外交面での論説に一家を成した。大正九年辭職。大阪毎日中興の祖渡邊吉水の養嗣子。

著書に『老帝國の山河—余と朝鮮及支那』（大正十年一月）二十八日金尾文淵堂）、『孤立的日本の光榮—英、米争覇河中の日本』（大正十年一月）二十八日大阪毎日新聞社）、『有色民族の大不平—白色民族の大煩悶』（大正十年七月五日大阪毎日新聞社）、『震災後の日本—國際の手の自助自立の』（大正十一年十月十五日大阪毎日新聞社・東京日日新聞社）、『回教民族の活動—亞細亞の將來』（大正十一年十月二十五日大阪毎日新聞社・東京日日新聞社）等。